

(様式第2号)

## 福祉サービス第三者評価結果報告書

事業所名 障害者支援施設 大口園

評価実施期間 平成29年6月14日～平成30年3月6日

### 1 評価機関

名称	公益社団法人鹿児島県社会福祉士会
所在地	鹿児島市鴨池新町1番7号 社会福祉センター5階

### 2 事業者情報【平成29年10月25日現在】

事業所名称： (施設名)	社会福祉法人 大一会 障害者支援施設 大口園	サービス種別：	施設入所支援 生活介護
開設年月日：	平成4年4月1日	管理者氏名	施設長 上園 卓哉
設置主体：	社会福祉法人 大一会	代表者役職・氏名	理事長 大保 潤一郎
経営主体：	社会福祉法人 大一会	代表者役職・氏名	理事長 大保 潤一郎
所在地：	〒895-2526 鹿児島県伊佐市大口宮人463番地30		
連絡先電話番号：	0995-23-0143	FAX 番号：	0995-23-0144
ホームページアドレス	www.daiichikai.or.jp	E-mail	daiichikai@po.minc.ne.jp

#### 基本理念・運営方針

##### <経営方針>

地域に密着した経営を目指し、礼をもって接するとともに、安心を与える笑顔で、温かみのある空間を提供します。

##### <ケア方針>

自立・自己選択・自己決定

##### <10のこだわり>

- 1 どんな人でも断らない。
- 2 1人1人にきめ細かい支援を。
- 3 “暮らしやすさに” こだわりを。
- 4 “ふつう” という価値観。
- 5 社会とつながろう！
- 6 わくわくできるイベントを。
- 7 行動制限をしない。
- 8 においのしないきれいな環境。
- 9 できないことよりできることを。
- 10 利用者である前に一人の人間。

(様式第2号)

**【施設事業所の特徴的な取組】**

<ul style="list-style-type: none"><li>・ユニットケア (かなうユニット・がじゅまるユニット・ひまわりユニット・やすらぎユニット)</li><li>・ユニット活動 (ユニット外出、ユニット茶話会、各種イベントなど)</li><li>・完全個室化</li><li>・ありがとうカード</li><li>・朝礼・終礼の廃止、支援日誌、栄養日誌、看護日誌→ケース記録の一本化</li><li>・個別ケアの推進 (日課を作らない、24時間シートの作成など)</li><li>・利用者会議・ユニット会議</li><li>・保護者交流会 (事例発表会、年末大掃除など)</li><li>・プリセプター制度</li><li>・福利厚生 (バースデイ休暇、アニバーサリー休暇、PTA休暇、有休貯蓄制度ほか)</li><li>・プロジェクト活動 (求人プロジェクト、研修推進プロジェクト、旅行プロジェクト、リスクマネジメントプロジェクト、衛生委員会ほか)</li><li>・積極的な研修への参加 (スキルアップ研修、実践事例報告会、家族交流会、外部研修ほか)</li><li>・事業計画に基づく計画的な事業推進</li></ul>
---

**【利用者の状況】**

定員	施設入所支援	40名	利用者数	施設入所支援	40名
	生活介護	40名		生活介護	44名
	短期入所	6名		短期入所(長期SS含む)	3名

**【職員の状況】**

職 種	勤務区分				※常勤換算	※基準職員数
	常勤(人)		非常勤(人)			
	専従	兼務	専従	兼務		
管理者		1			1.0	1.0
サービス管理責任者	1				1.0	1.0
生活支援員	18	1	3		21.3	10.0
看護師	1		1		1.8	1.0
栄養士	1				1.0	1.0
事務員	4		1		4.9	-
作業員	1				1.0	-
前年度採用・退職の状況			採用		常勤 9人	非常勤 12人
			退職		常勤 9人	非常勤 20人
○常勤職員の当該法人での平均勤務年数						8.2年
○直接処遇に当たる常勤職員の当該法人での平均勤務年数						6.4年
○常勤職員の平均年齢						37.2歳
○うち直接処遇に当たる職員の平均年齢						35.5歳

(様式第2号)

### 3 第三者評価の受審状況

評価実施期間	平成29年 6月 14日 (契約日) ～ 平成30年 3月 6日 (評価結果確定日)
受審回数(前回の受審時期)	回 (平成 年度)

### 4 評価の総評

- ・施設は緑が多く柵やフェンスなどの仕切りはなく開放的な環境となっています。利用者は施設内外で自由に過ごされ、玄関横の事務所も開放的で利用者の生活スペースの一環として自由に出入りし、職員に気軽に相談されています。
- ・法人の敷地内に2施設とグループホーム、グラウンド、本部棟があり、本部棟には温泉（家族湯も含む）が隣接されており、利用者や職員、地域住民が温泉を利用しています。
- ・施設長は、利用者が施設内だけで生活を完結することなく、常に地域社会とつながり自由に生活することができる「脱施設化」を目指し、枠内にとらわれず支援について職員と自由に考え実践に向けて努力されていますので、今後の取り組みが期待されます。
- ・法人全体で業務改善や効率性の向上に向け、求人、リスクマネジメント、研修推進、衛生推進などのプロジェクトを作り、各施設長がそれぞれのプロジェクトリーダーとして活動を推進する体制が整っています。求人は専従の職員とプロジェクトリーダー、担当職員が年間を通して活動し、離職者対策として福利厚生の実施を図り、休暇を取りやすくするため法人独自に多種の特別休暇を設け職場環境の向上に取り組まれています。
- ・「10のこだわり」が職員に浸透するように会議等でテストや発表を行い工夫され、すべての取り組みの基本となっている様子が伺われます。取り組みは簡潔・明瞭に明示されて利用者に伝わるように工夫されています。  
今後、取り組みの実施を図るために支援方法の基準となるマニュアルと評価基準の作成と取り組みを評価する体制づくりが求められます。
- ・事務室内の入り口に空き缶を利用して職員一人ひとりのポストが設置され、上司を含め全職員が一人ひとりの気づきを褒め、感謝する言葉を「ありがとうカード」に記入し相手のポストに入れ伝えています。「ありがとうカード」は年間集計を行い、表彰を行うなど、褒める、感謝する職場文化を作るため、形として表現する取り組みを行い職員の意識の向上・改善につながっています。
- ・築20年の建物を改修し、全室個室化されていますが、今後ユニットスペース、ユニットに玄関を作り、利用者の生活環境の実施への取り組み、更なる取り組みが期待されます。
- ・一つ一つは自由な発想で斬新な取り組みが行われていますが、それぞれの取り組みを結び付け、相互の連携を図るなど活動を統合し構築する体制づくりが望まれます。
- ・業務改善の一環として記録などの簡素化やペーパーレスを推進し、グループウェアソフト「サイボウズ」を導入し活用されている事は評価できますが、分析結果や会議録、議事録など必要な記録や資料の保存方法について検討が求められます。
- ・ユニットケアの導入により小グループ支援が可能となり、24時間シートを活用することで利用者に応じた個別ケアが行われています。また取り組みについての評価は、利用者アンケートによるコメントでも確認できました。ユニットスペースの改修工事が行われ、これからも生活環境の見直し、利用者の満足度向上に期待します。

(様式第2号)

- 5 第三者評価結果 (別紙)
- 6 利用者調査の結果 (別紙)
- 7 事業者の自己評価結果 (別紙)
- 8 第三者評価結果に対する施設のコメント

この度、初めて第三者評価を受審させていただきました。まずは職員間で第三者評価を受審する意義と目的を共有したうえで、項目の一つ一つを話し合いながら、自己調査をさせていただきました。役職者はできていると感じていても、職員は課題を感じていたり、一方で職員は満足していても、役職者は課題と感じていることなど、職員間の微妙な評価に対するズレがあり、いろいろなことが明確になりました。これらの項目については取り組みに対する職員への説明不足や、暗黙のまま歴年のルールとして継続しているものなどが理由であり、人事異動や入退職の際の伝達漏れなどが原因と考えられます。今後はわかりやすい資料とマニュアルの整備、言語化を図り、改善をしていきたいと思えます。

また一方で、大口園が重要視している、自由な雰囲気、自己選択・自己決定などの意思決定支援、10のこだわりや事業計画、ユニットケア等については第三者である外部の方から、具体的にお褒めの言葉をいただき、大変自信になりました。

今後もよりよいサービスの提供の為に、経営理念を大切にしながら、ご利用者、ご家族、職員の更なる満足度を向上するため、更に工夫や改善を図り、努力していきたいと思えます。